

+++++
「植物と人々の博物館メールマガジン」 第24号 2017年1月12日発行
+++++

新しい年が私たちにとって、良くなるように願いながら、新春のご挨拶を申し上げます。本年も一層よろしくお祈りします。昨日は久しぶりに、小菅村の畑に行きましたが、雪で被われていて接近できませんでした。ホームセンターではもうジャガイモのたねいもを売っていました。寒いと言いながら、春の準備が始まっています。年末には京都に龍安寺、金閣寺、仁和寺（写真）を訪ねました。年始には深大寺に初詣に行きました。

展示解説・作業予定日：1月11日（木）、19日（木）、27日（金）、2月3日（金）の予定です。

春を心待ちにしながら、森とむらの図書室（小菅・藤野）の蔵書や標本の整理などを行っています。年に1日、月に1日でも、未来への遺産である民具や図書の整理をご一緒いただければありがたいです。参加希望者は木俣にメールしてください。kibi20kijin@yahoo.co.jp

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は「ナマステ」でお知らせしています。ご関心のあるご友人に転送などでご紹介いただき、「辺境」の地道な活動に薄情な「マスコミ」や「ギョウセイ」ではなく、顔見知り信頼の「ロコミ」で転送伝達していただけると嬉しいです。連絡先は上記メールアドレスです。

○報告

1. シンポジウム「農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流」（現代文明の移行と伝統知・生業 ～第39回環境学習セミナー）の企画準備状況 詳細はHPに掲載しています。

<http://www.millettimplic.net/collegefores/2017sympov8.pdf>。

12月21日に篠原の里に打ち合わせに行き、1月8日に藤野世話人会で「藤野の街歩き」などについて打ち合わせをしました。講演者の皆様には要旨をくださるよう代表理事からお願いしました。1月11日に事務局打ち合わせをしました。1月27日に藤野観光協会にバスのことで打ち合わせに行きます。

伝統知研究会（森林基金助成）は、12月8日に神田のエコプラス事務所で行い、シンポジウムの具体的な打ち合わせをしました。また、1月24日の伝統知研究会で内容を確認して、シンポジウムのチラシなどを作り、参加申込の受付を始めます。

2. FAO 世界農業遺産に関して、12月16日（金）に、手続きなど聞きに農水省／生物多様性保全班を訪問しました。直接窓口は関東農政局です。12月21日に、この件につきミューゼス研究会幹事と打ち合わせをしました。年末に、古守豊甫先生のご息古守泰典医院長、上野原市長、東京学芸大学長にご協力の依頼状をお送りしました。**地球環境基金に助成申請**をしました。課題は「雑穀街道をFAO世界農業遺産に」です。生物文化多様性の現況調査研究班と雑穀街道協議会づくり班で構成して、FAO世界農業遺産の認定申請するための準備活動をしたいと考えています。

3. 緑と水の市民カレッジ講座「目からうろこ雑穀の世界」

2017年1月7日（土）、13時から、緑と水の市民カレッジ講習室、千代田区日比谷公園、東京都公園協会。23名の方が聴講してくださり、感想では面白かったと難しすぎたと賛否が分かれたそうです。講義録はHP「日本村塾」に掲載しました。雑穀を仲介に、第四紀におけるヒトと一年生植物の共生進化の環がつながりました。狛江市のご婦人もご質問くださり、小菅村との連携もあるので、雑穀食を普及するためにいずれ講義をするようにお誘いいただきました。

4. 埼玉所沢の石坂産業を12月26日に訪問しました（写真）。社長から食文化と農耕を大事にした環境学習についての理論などについて意見を求められました。ご案内していただき、廃棄物処理の現場はとても素晴らしいと思いました。環境教育の諸施設は順次整えられつつあり、観察園や農園などはまだ出来立て感が強いですが、いずれ年を重ねたら、落ち着くことでしょう。

○予定

1. 日本村塾ゼミ

ご意見、ご要望をお知らせください。

1) 自給農耕ゼミ第9回 日時：未定

場所：藤野未定 内容：読書会など。

参考図書：①デビット・ホルムグレン 2002 (リック・タナカほか訳 2012) パーマカルチャー—農的暮らしを実現するための12の原理／上・下／上・下、Commons、東京。②ビル・モリソン／レニー・ミア・スレイ 1991 (田口恒夫・小祝慶子訳 1993)、パーマカルチャー—農的暮らしの永久デザイン、農文協、東京。

2) 民族植物学ゼミ第5回 日時：未定。参考図書：中尾佐助 1966、栽培植物と農耕の起源、岩波新書、再読したいロングセラーです。

3) 扶桑園ゼミ第3回； 希望者があれば、くにとは何かや日本国憲法についてテキストをもとに話し合ってみたいと思います。

2. FAO世界農業遺産に関して、1月19日(木)10時に、手続きなどの相談に農水省関東農政局環境保全課を訪問します。その後16時に、ミューゼス研究会の幹事方と小菅村長にご説明に伺います。

3. 場の教育研究会 (ECOPLUS) の国際シンポジウム

日時・場所：2017年1月21日(土)立教大学8101教室。22日(日)早稲田大学国際会議場

課題：グローバリゼーションと地域～持続可能な社会の形成に向けた「場の教育」

詳細は添付チラシでご案内し、ご参加をお誘いします。この中で行われる分科会「生き方、暮らしの経済～生物文化多様性を活かす」をTT藤野お百姓くらの飯野さんと担当します。植物と人々の暮らしをつなぐ、親しく深い内容の座談会にしたいと思います。年末にはすでに10名の参加希望があったそうです。ぜひお出かけください。

4. 植物と人々の博物館公開解説

日時：5月4日(木・祝)、場所：小菅村中央公民館

5. 雑穀栽培講習会

日時：5月13日(土・祝)、場所：小菅村中組の畑など

日時：5月～6月未定、場所：藤野駅上の畑(藤野倶楽部の畑を無償借用しています)など。

6. 民族植物学第10号は著者再校中です。1月中には印刷できると思います。主な記事は下記です。でき次第、希望者にはお送りしますので、メールください。なお、第11号の原稿締め切りは2017年3月末予定です。ご寄稿をお待ちしています。環境学習セミナーの報告、野生植物の利用、九州・沖縄の雑穀栽培、信仰論などを準備しています。・・・

インドに繋がる(西川至)、里山資源の活用に向けた伝統的・科学的智慧体系の変化と展望(西村俊)、愛媛の山里の諸問題(土井利彦)、東京学芸大学探検部創立40周年記念セミナーを開催にして<第35回環境学習セミナー報告>(黒沢友彦・小川泰彦)、『明日の小菅村を探る』～持続可能な地域社会の再検討～<第36回環境学習セミナー報告>(黒沢友彦・中込貴芳・木俣美樹男)、人口減少時代における地域再生～都市と農村、中央と地方の健全な関係を再建することから<第36回環境学習セミナー基調講演>(山下祐介)、欧米の雑穀見聞録(木俣美樹男)、自分で日本国憲法を考える(木俣美樹男)、付録1. 自然文化誌研究会が担当した雑穀関連シンポジウム・研究会の小史、付録2. 植物と人々の博物館の活動 2015年度記録、編集後記(宮本幹江)

6. 『雑穀のインド亜大陸』は2017年3月を完成目標に、個人(主語私)の実経験をまじえながら、自由に書いています。やっと、州ごとの各論に書き進みました。未定稿ですが順次章ごとに公開していきます。下記の個人ホームページから引用してくださる場合は、「木俣美樹男(2016未定稿)」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージアム研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） npo-inch@wine.plala.or.jp

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

連絡先・相談係：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

個人 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>



写真 1. 仁和寺の玄関に飾ってあった仏手柑と「吾唯足知」の手水。



写真 2. 石坂産業の野菜販売と民家・民具展示。